

5歳児 年間指導計画

	I 期(4月～5月上旬)	II 期(5月中旬～7月)	III 期(9月～10月上旬)	IV 期(10月中旬～12月)	V 期(1月～3月)
子どもの姿	・年長になったという喜びは大きく、期待をもって登園し、はりきって生活する姿が見られる。園のリーダーとしてのいろいろな役割や活動に取り組んだり、年下の友達に対して優しくかわったりする中で、認められたり感謝されたりすることが自信につながり、年長児としての自覚が高まってくる。中には新しい保育者に緊張感をもつ子どももいる。 ・自ら選んでする遊びでは、自分がしたい思いをはっきりともち、遊びに向かっている子どもがほとんどである。遊びの中で思いを実現するために、自分たちのこだわりを見つけたり、色々な道具や素材を使ったりする姿に変化している。こだわりや試したことを気の合う友達や保育者、興味をもった友達に自分なりの表現で伝えることが多くなっている。 ・生活の場が新しくなり、自分たちで場を整えたり、新たなクラスでのルールを考えたりするなど、クラスのみんなが気持ちよく過ごすための方法を考えようとする。クラスの中でお互いに声を掛け合うクラスも見られる。	・クラスの中で自分の思いを安心して出せるようになってきている。クラスでの共通の目的を一人一人が捉えて、そのことを楽しみなことに加えて、目的に向かい話し合いなどの場面で積極的に参画し、より楽しくなるように考える姿が見られる。 ・5月の若草山に登る遠足では、クラス全員で同じ目的に向かって活動する経験をし、クラスでの活動により積極的にかわらうとしたり、自分たちで考えたことの実現に向けてクラス全員で考えたりするようになる。クラスでの出来事や活動を自分事として捉え、共通の目的やイメージが多くの子どもたちの中で共有されるようになってくる。 ・自ら選んでする遊びでは、一人一人が目的をもち、遊びに向かっている。その中で、気の合う友達同士の繋がりが増えたり強くなり、自分たちの遊びのイメージや目的、面白さを共有して、一緒に繰り返して遊ぶようになる。 ・周りの友達の様子を気にかけるようになり、クラス全体で生活を共にしている意識が芽生えてきている。	・長期休み明けや教育実習生活がいるという環境で、個別の配慮が必要な子ども数名はいるがほとんどの子どもが新学期の生活に期待を持って、2学期の生活をスタートさせる。園で自分のやりたいことが明確であったり、見通しをもって新たな環境に適応していく力が発揮されたりしている。 ・運動会に向けて、友達と体を使った遊びを楽しく中で、共に演技をしたり、競い合ったりすることを楽しむようになる。チームやクラスでの目当てに向けた話し合いにも意欲的に参加し、その中で自分ができることを考えようとする。 ・同じ遊びを数日にわたって繰り返し遊ぶ姿が増えてくる。自分したいことを実現したいという思いが強くなると同時に、粘り強く取り組むようになってきている。また、友達のいろいろな考え方や捉え方があることに気づき、自分の遊びに取り入れるようになってくる姿も見られる。 ・より大勢の人数で遊んだり、活動したりすることを楽しむ子どもたちが増えている。気の合う友達だけでなく、クラスのいろいろな友達や考えに触れることで、友達への理解が広がり一緒に選んだり活動したりすることに前向きになる。	・友達と共有されている目的に向かって、考えや思いを出し合いながら、より良いものにしていくとする姿が見られるようになる。遊びや生活の中で目的がより明確になるようになり、友達と言葉でコミュニケーションをとったりが目的に向かっていくようになってくる。また、友達の思いや考えを受け止められるようになり、それに対して自分なりに提案することもできるようになってくる。 ・知的好奇心や探究心が高まり、様々なことに意欲的に取り組むようになる。色々な方法を試しながら取り組むようになってくる。 ・友達と一緒に協力して遊びや活動を進めている中で、自分のできることを考えて取り組むことができるようになってくる。友達のことがよくわかってくるようになり、一緒に活動することがより楽しくなる。充実感をもつようになってくる。 ・園の中で起こる環境の変化はもちろん、保育者や友達から聞いた園外での出来事についても興味・関心をもち、その出来事にクラスの友達と一緒にかかわる素みがかわり、それを感じて思いをもちながらかかわるようになる。また、かわりの対象や事象が広ががり、自分事として捉えることができるようになってくる。	・自分の好きなことややりたいことがより明確になり、そのことを自分なりにどんなに深くまで考えていく姿が見られるようになる。自分と他者を対比させながら、自分自身について気付いたり、理解を深めたりすることができるようになる。自分自身の良さを自覚し、自信をもって園生活を送るようになる。 ・自分の好きなことやしたいことを日々、繰り返し行う中で、目的や思いの実現に向かっていることを自覚し、そのプロセス自体を楽しむようになってくる。自分自身や遊びについて客観的に見ることができるようになってきている。もっとよい気持ちでさらに強く出ようになり、それが実現していくことを楽しむことができるようになってくる。 ・クラスの一人ひとりが友達の良さをわかち、互いを認め合ったり、励ましあったり、助け合ったりする姿が見られるようになる。互いの思いを認め合えることが、共通の目的に向けて、協力し、すすめることを楽しむようになる。 ・自分自身を客観的に振り返ることができ、自分の成長を自覚することができるようになる。

地球の中で		【世界を広げる】 【つながりに気づく】 【参加・参画】					
ねらい	基礎となる力	○興味関心をもって様々な環境（ひと・もの・こと）にかかわる／園生活を楽しむ ○園庭や地域の自然に親しむ／五感を使い、さまざまな感覚を味わう ○喜んだり、泣いたり、怒ったり、さまざまな情動を体験する／気持ちや思いを他者と共有する（共感）					
	安心・安定	○園にかかわるすべての人が多様なままに受け入れられ大切にされて過ごす ○園という環境（ひと・もの・こと）に慣れ親しみ、安心して過ごす ○一人ひとりのものの見方や考え方を大切にされ、安心して表現する ○くつろいで過ごし、心身の疲れが癒される					
	安全・健康	○生理的欲求が、十分に満たされる ○のびのびと体を動かし、さまざまな運動を楽しむ ○保育者とともに病気の予防や基本的な生活習慣の形成に取り組み、健康に氣をつけて過ごす ○危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、保育者とともに安全に氣をつけて行動する ○自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる					
	教育・創造	自分から	○年長になった自覺を持ち、新しい生活に意欲的に取り組む。	○クラスでの活動に関心を寄せ、意欲的に取り組む。	○クラスの中で共有されていることや出来事を理解してかわり、積極的に役割をみつけて取り組む。	○気持ちや行動を自律的に調整しながら活動に取り組む、クラスの中で充実感をもって過ごす	○自分の成長を自覚し、誇りを感じ、自信を深めながら、充実した園生活を過ごす
		創造する	○自分の思いを実現していく面白さを感じながら遊ぶ。	○共通の目的やイメージの中で、自分なりの思いを持ち、試したり工夫したりして遊ぶことを楽しむ。	○自分の思いの実現に向けて、物事を多面的に捉えながら試行錯誤し、粘り強く取り組もうとする。	○色々な方法を試しながら、失敗してもやり直げようとする気持ちをもち、何事にも粘り強く取り組む	○物事に対する思考を広げたり深めたりし、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにす
		人とともに	○新たな場で、クラスのみんなが気持ちよく生活するための約束事やルールをつくり、互いに守ろうとする。 ・年長児になった喜びを十分に感じる。 ・クラスの友達と一緒にこども園の生活を進める。 ・クラスの友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付き、守ろうとする。 ・気の合う友達と一緒に思いを出し合いながら遊ぶ。 ・遊び慣れた園庭や保育室で目的をもって遊ぶ。 ・必要なものを自分で考えて、取り入れながら遊ぶ。 ・春の自然を体て感じながら、遊びや生活に取り入れる。 ・思いや考えを自分らの言葉で伝える。 ・自分たちの生活に必要なものを自分たちで考えてつくる。 ・楽しかったことや経験したことを絵や製作で表現する。	○同じ目的や思いを持つ友達の考えに触れ、互いの思いを聞き合いながら遊ぶことを楽しむとともに、一緒に考える実現させる喜びを感じる。 ・必要に応じて水分補給をしたり、衣服を着替れたりなど健康な体のために必要なことを自分で考えてやる。 ・水遊びやプール遊びで全身を使って、気持ちを解放させて遊ぶ。 ・クラスの友達と声を掛け合いながら園生活を進める。 ・友達と目的やイメージを共有して遊ぶ。 ・クラスでの活動に興味関心をもち、取り組む。 ・行事を自分たちで計画し、実行しようとする。 ・身近な地域に遠足や園外保育に出かけ自分達の生活とのつながりを感じる。 ・クラスでの共通の話題について、自分の考えをもち、伝えようとする。	○友達とのかわりを広げ、いろいろな友達の思いや考えに触れることの楽しさや良さを感じる。 ・必要に応じて水分補給をしたり、衣服を着替れたりなど健康な体のために必要なことを自分で考えてやる。 ・十分に休息をとらながら、戸外へ体を動かして遊ぶ。 ・教育実習生と積極的にかかわる。 ・自分の思いを出し、友達の言葉にも耳を傾ける。 ・クラスの友達の思いや考えに触れる。 ・大勢の友達との遊びに積極的に参加する。 ・チーム対抗のゲームのルールのある遊びに取り組み、様々な情動を体験し、チームで共有しようとする。 ・運動会などクラス全体で取り組む活動について話し合 ・思いの実現に向けて根気よく取り組む。 ・身近な動植物の生命の尊さに気付く、大切にしようとする。 ・国旗に接することで、国旗や様々な国に親しむ。 ・色々な友達関係の中で自分の思いを言葉にして伝えようとする。 ・音楽に合わせて体を動かしたり、体操したりする。 ・楽しかったことや経験したことを表現する。	○クラスの友達と互いに認め合い、充実感をもって過ごす。 ・色々な方法を試しながら、失敗してもやり直げようとする気持ちをもち、何事にも粘り強く取り組む ○クラスの友達と互いに認め合い、充実感をもって過ごす。 ・秋の歴史や文化、動植物に触れ、興味関心をもつ。 ・お楽しみ会に向けて、自分たちで目的に向けて工夫する。 ・地域に園外保育に出かけたり、高齢者福祉施設を訪問したりして、色々な人とかかわりをもつ。 ・かいたふたりたりのしたものを地域の人々など多くの人に知ってもらふ。 ・秋の自然を体て感じ、遊びや生活に取り入れる。 ・奈良の歴史や文化、動植物に触れ、興味関心をもつ。 ・季節の歌を取ったり、街の様相の変化を感じたりして、季節の移り変わりをを感じる。 ・日常生活の中で、数量・図形・位置・時間に関心をもち、生活の中で使て遊ぶ。 ・友達と思いを見聞きしながら遊びを進める。 ・クラスの友達と音楽表現、身体表現、製作・絵画など様々な表現活動を楽しむ。	○互いの意見を尊重し合いながら、話し合い協力して園生活を送ることを楽しむ。 ・互いに声かけ合いながら園生活を進めていく。 ・風邪の予防などに意識を向け、健康な生活に必要なことを自ら行う。 ・クラスの中で自分の役割を意識し、自分の力を発揮しながら、遊びや生活を進めていく。 ・こまめ掃除び、けん玉、一輪車などの挑戦的な遊びをする。 ・自分で目標を設定し、繰り返し繰り返り取り組む。 ・園での生活を振り返りする。 ・小学校での生活に期待を膨らませる。 ・冬の身近な事象に関心をもち、それを取り入れて遊んだり、変化に気付いたり不思議さに気付いたりする。 ・友達と思いを見聞き合いながら遊びを進める。 ・季節の歌を取ったり、街の様相の変化を感じたりして、季節の移り変わりをを感じる。 ・日常生活の中で、数量・図形・位置・時間に関心をもち、生活の中で使て遊ぶ。 ・友達と思いを見聞きしながら遊びを進める。 ・クラスの友達と音楽表現、身体表現、製作・絵画など様々な表現活動を楽しむ。
内容							
ねらい	命の保持	○新しい環境で、安全に氣を付けて道具や道具を使ったり、安全に行動したりすることを確認し、すすんで守ることができるようになる。					
	情緒の安定	○年長になった喜びと不安な気持ちを丁寧に捉え、一人ひとりの様子に合わせて配慮する。 ○それぞれの意欲的な様子を受け止め、安定した気持ちで過ごせるようにする。					
環境構成◆援助		▲クラスの友達は替わらないため、大きな戸惑いや不安定になることはないが、担任が替わる際には、緊張したり不安になったりする子どももいることが予想される。そのような子どもの様子を注意深く捉え、その子に合わせたかわりを積極的に行い、信頼関係を築き、より安心して意欲的に年長児の生活が送れるようにする。 ●年長児の生活の流れが視覚的にわかるように、1日の流れを示した物を掲示したり、それぞれの活動の時間を掲示したりすることで、新しい生活の流れにも見通しがもてるようになり、それぞれの活動や毎日の生活に期待をもつことができるようになる。 ●年中児からしていた遊びの環境を事前に用意しておくことで、安定した気持ちで遊びに取り組めると同時に、思いをもって継続したい遊びを引き続き行い、より思いが強くなったり、広がっていたりすることができるようになる。 ▲子どもたちの遊びや生活と一緒に入りながら、それぞれの思いを読み取り、子どもたちが工夫していることや発見することを十分に認め、より面白くしようとする気持ちを大切にすること。 ●身近な春の草花や小動物ののそれぞれの子どもの様子などがかわりながら変化する姿を十分に観察し、遊びに取り入れたら、飾ったり、絵で表したりなどが実現できるようにする。 ▲生活の場の使い方や遊び方について、折に触れて話し合い、確認し、共に生活の場づくって行くことを大切に、その過程を通して年長児になった実感をもてるようにする。					
		●クラスで取り上げる活動や行事には、できる限り子どもの考えや思いが反映されるようなものを選択し、子どもたちと一緒に立ち上げていく姿勢で保育を進めていくことを意識することで、子どもともより意欲的に活動に参加できるようにする。 ▲クラスの一人ひとりの園生活やクラスでの活動への向き合い方を丁寧に読み取るようにし、一人ひとりに合わせて活動に合う気持ちを支えて援助するようにし、それぞれが自ら動き出したタイミングを逃さないようにする。 ●子どもたちのしている遊びの中で、試したり工夫したりできるポイントを意識しながらかわり、その時々に応じて必要な素材の提案をしたり、園内にある教材教具と一緒に見に行ったりすることで、子どもたちが繰り返し試したり工夫したりすることが楽しめるようになる。 ●子どもたちの遊びや生活の様子を見ながら、共通の目的やイメージをもちながら試したり工夫したりできる遊びの提案も必要に応じて行うようにする。 ●保育者も一緒に遊びながら、上手いかないことや失敗したことでも楽しみながらやつたり、励ましたりすることで、プロセス自体が楽しくなるようなかわりを心がけるようにする。 ▲互いの思いや考えを聞き合いながら選んでいる様子を十分に認め、自分たちで遊びや生活が進む楽しさが感じられるようにする。また、思いが行き違ったり、目的がずれていたりする場合では保育者も介し入、互いの思いを聞きながら遊びが進められるようにかかわり、互いの思いに触れられるようにする。 ●クラスで共有している目的に向けた取り組みのプロセスがよくわかるように可視化したドキュメンテーションなどを掲示し、子どもたちがいっても確認し、活用できるようにする。 ●子どもも興味関心をもったことと地域に関わりあえることと関連付けられるようなことがあれば、保育者から提案してみる。（地域へ買い物に出かける、地域の方に話を聞く、公共の施設にでかける、など）					

食育	保護者への支援
・食事の準備や片付けなどについて子どもたちと話し合い、自分たちでできることを考え、クラスのみならず楽しく食事ができるようにする。 ・夏野菜の栽培を通し、責任をもって水やりをし、育て、生を予測し楽しみにしたり収穫を喜んでたりできるようにする。 ・自分たちで調理する機会を設け、給食の調理員さんへ作り方を教わったり、自分たちで材料を揃えたりする活動を通して、調理する人への感謝の気持ちや食べ物大切にすることの気持ちが育まれるようにする。 ・食べ物や栄養と体の健康との関連に興味や関心をもち、バランスのよい栄養をとる大切さを知り、自ら色々な食材を食べてみようと思えるようにする。 ・サツマイモの収穫の際には、農場の方に、サツマイモの育つ方を聞く機会をもち、食物が土や水、太陽の光などによって育つことを知ること、様々な食材に関心をもち、食の環境を意識するきっかけとなるようにする。 ・お別れ会などで、年下の友達や園の職員と一緒に給食を食べる機会をもち、感謝の気持ちを伝えと共に、一緒に食べることの楽しさを改めて感じられるようにする。 ・年度末には、お世話になった給食調理員さんへの感謝の気持ちを言葉や製作物などで表し、伝えられるようにする。	・進級当初は、子どもの様子を細かく共有し、環境が変わってからの一人ひとりの状況を共有し、保護者との信頼関係を築いていく。 ・進学に向けて、進路に悩んでいる保護者や、支援が必要な子どもの保護者には、様々な進学先の提示や、進学に際しての手続きなどを早めに伝える。 ・個人懇談では、子ども一人一人の成長を保護者と共有すると共に、伸びようとしている部分や課題となる部分について共通認識をするようにし、先の見通しを保護者が持つことができるようにする。 ・保育参観や懇談会、クラスだよりを通して、子どもたちが楽しんでいることや頑張っていることを保護者にも共有し、家庭でも園でしていることが話題に上がるようにする。 ・行事（運動会）のねらいやプロセス、行事を通して育ったことを保護者に伝え、子どもの成長を共有し、より実感できるようにする。 ・子どもたちの中で話題になっていること（例えば数量・図形・科学に関わる活動）をドキュメンテーションなどで紹介することで、家庭でも話題にしてみたり、活動に必要な材料を依頼したり、場合によっては活動に参加してもらうなどして、子どもたちの学びが促されるようにする。 ・年度末には、卒園に向けての取り組みの様子や今までの遊びや活動の写真を掲示するなどして、共に成長を喜び合えるようにする。 ・小学校の生活や学習について、保護者の不安な気持ちを受け止め、小学校の話聞く機会をつくり、具体的に伝えたり、小学校につないだりし、親子で就学を楽しみにできるように支える。